

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.10 森林入門！ No.18 木工クラフト体験
---------	-------------------------------

学校名	香南市立赤岡小学校
学年・生徒数	6年 17名（保護者 17名）
実施場所	香南市立赤岡小学校 6年生教室
目標	・木の手触りやにおいに親しみ、木工を通して自然との関りを学ぶ。 ・木（カンナくず＝かばな）の特徴を生かし工夫してコサージュを作る。
実施教科	P T A行事
関連教科	図工、理科、総合的な学習の時間
準備物	講師…かばな（花びらの形に加工）、ピン、コサージュ用ケース、ボンドなど

実施項目	講話（森林率、森林面積、「かばな」の利用とSDGsなど） 木工（「かばな」を使ったコサージュ作り）
対象プログラム	No.10 森林入門！ No.18 木工クラフト体験
所要時間	講話 10分程度、木工 90分程度
実施内容	<p>・講話（森林率、森林面積、「かばな」の利用とSDGsなど）</p> <p>講師は、森林環境について、高知県の森林率や森林面積などの話をした後、児童らに木工作品（卒業式用コサージュ）の材料となる「かなば」を見せて、以下のような説明をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 木材を削る時にでる「カンナくず」のことを高知県では「かばな」という。</li> <li>* この材料は県産材ヒノキで、「鳴子」を作る時にでた「かばな」である。</li> <li>* 通常は廃棄される「かばな」を活用することでSDGsにつなげる。</li> </ul> <p>・木工（「かばな」を使ったコサージュ作り）</p> <p>講師が、見本を見せ、作り方の工程や注意点などを説明しながら、親子で創作した。</p> <p>作業は、まず、「かなば」（片面に和紙を貼付）を花びらの形に切り、根元をカットして、少し丸みがでるように加工する。その大小合わせて14枚の花びらを外側（大きな花びら）から順番に、土台にボンドで張り付けていく。最後に、中央（雌蕊部分）に飾りをつけ、裏面にホットボンドでピンを固定する。</p> <p>花びら（かばな）の色や模様（木目）に違いがあり、花びらの丸みのつけ方によっても雰囲気が変わるため、それぞれ個性のあるコサージュが完成した。</p> <p>廃棄されるカンナくずを活かして作品づくりをすることにより、森林資源の新たな魅力に気づき、環境保全への関心を高める効果が期待できる。また、親子で協力し会話しながら楽しそうに工作をする姿は微笑ましく、卒業記念として記憶に残るとても良い体験授業である。</p>

実施風景



補足  
その他、プログラムの  
特徴

・かばなのコサージュ作りの講師派遣について、講師と学校の日程調整等が困難な場合は、材料と説明書等を学校に送ることも可能。

・理科の授業等で人と自然のかかわりについて学習し、身近な環境問題について調べるなどの事前学習を行っている。

・赤岡小学校では、1、2年生も山の学習に取り組んでおり、高知県立甫喜ヶ峰森林公園で森の散策や木の葉や木の実を使った木工体験等を実施している。